

CKJSだより

第48号

校長 松平 昭二

shoji_matsudaira@hotmail.co.jp

遊び能力と学習能力

「昔はよかった」「このごろの若い者は」というのは、年配者の二大決まり文句ですが、今の子どもたちも同じことを言いたいのではないでしょうか。「このごろの大人は、親も先生も勉強ばかり強制する。昔はよかったのだなあ」と。

明治育ちのお年寄り 35 人からの聞き書きをまとめた『明治の子ども・遊びと暮らし』(藤本浩之著)を読んでそのように思いました。「勉強ちゅうたって、読本、算術、修身、習字、唱歌よりあらしません」「学校でも、無理に勉強させられるいうことは、あまりありませんでしたな」というわけで、子どもはせつせと遊ぶことができました。

むろん、学校で勉強させるよりも、子どもに家事や農作業を手伝わせるのに重きが置かれていた時代です。子どもはその合間を縫って遊びました。末の妹のお守りを弟に押し付けて勝手に遊びに行き、泣いたら呼びにこさせた、といった思い出がいかにも楽しそうに語られています。遊び道具も出来合いのものは少なかったので、みな自分たちで工夫しました。何もないから、逆に何にでも好奇心がわき面白かった、ということです。今は、これでもか、これでもかと遊びが商品化され、売り浴びせられます。勉強、勉強の重圧もさることながら、遊びに主体性が許されない状況に危惧を覚えます。

日本教育学会での研究発表によると、遊び能力と学習能力とは比例しているといえます。小学校高学年を対象に調べた結果ですが、6年生では「遊び能力は低い、学習面では高い位置にいる」子は一人もいなかったそうです。遊び能力とは、子どもを自由にさせるところで育つもの。遊びを奪って勉強ばかりさせ、しかも本当は勉強もできない子どもをつくっているのだとしたら、「このごろの大人たち」はどうかしているのではないのでしょうか。

本日、4年ぶりに全校による運動会が行われました。教室を離れ、思いっきり身体を動かし、応援合戦もある楽しいゆとりの時間でした。子どもたちが行事を通して学ぶことは多々あります。これからも充実した行事の実現に向け努力していきたいと思えます。運動会担当の保護者の皆さま、準備・片付け等ありがとうございました。

